

大学野球における「楽しさ」の検討

山本 研太 (生涯スポーツ学科 学校スポーツコース)
指導教員 南島 永衣子

キーワード：大学野球，楽しさ，マズロー

1. 緒言

生涯スポーツへ向けて、楽しいスポーツ生活のあり方、具体的にはスポーツの楽しみ方は重要な位置を占める。スポーツを楽しもうとすると、多く人は軽く考えてしまいがちであるが、一概に「楽しみ」といってもいろいろなレベルが考えられる。私が野球に対して感じてきた「楽しさ」はレギュラーになる楽しさや、試合に勝つという楽しさ、仲間と協力するといった楽しさであったが、ほかの人も同じように感じているのか大変興味をもった。

そこで、B大学硬式野球部はどのような楽しさを感じているのか、また、楽しさがスポーツにどのような影響を及ぼしているのか「楽しさ」について検討を深めていきたいと考えた。

2. 研究方法

本研究の調査対象者は、B大学硬式野球部3年生13名、2年生17名、1年生48名、全78名を対象に調査を行った。調査時期としては10月中旬にアンケートを行った。調査項目は、野球の「楽しさ」を感じると思われる場面を想定した。その際、マズローの欲求5段階説(国司, 2010; 児玉, 2011)を参考に、自己実現欲求、承認と自尊心欲求、所属と愛欲求、安全欲求、生理的欲求の大きく5つの次元を設定した。得点化は、とてもあてはまるを「5点」、ややあてはまるを「4点」、どちらでもないを「3点」、あまりあてはまらないを「2点」、全くあてはまらないを「1点」とし5件法で回答させた。データの分析方法は、エクセル統計による記述統計量を行った。

3. 結果と考察

B大学の硬式野球部の自己実現欲求による全体の傾向は、表1の通りであった。全78名の平均点は、問1、問5、問10において、4点以上という高い結果になった。このことから、B大学の硬式野球の選手は、うまくなりたいたい、目標を達成したいという意識が強く、そのため、自己実現欲求が高くなったと考えられる。

表1 自己実現欲求による全体の傾向

質問項目	平均点	標準偏差
問1 自分の思い通りの野球ができたとき	4.52	0.78
問5 目的に向かってやり遂げようと頑張るとき	4.04	1.00
問10 ヒットを打った時、三振を取ったとき	4.44	0.93

4. まとめ

本研究では、B大学の硬式野球を対象に野球の「楽しさ」に関する検討を行った。その結果、自己実現欲求、承認と自尊心欲求、所属と愛、安全欲求が得点としては非常に高い平均点が示された。その一方で、生理的欲求は低い平均点が示された。このことからB大学硬式野球部の学生は、総体的に野球を「楽しい」と感じていることが示唆された。もっとも、生理的な欲求を満たすような「楽しさ」は、あまり感じていないことも明らかとされた。なお、今後の課題として、他大学や小中高、年齢などの違いやポジションの違いなども含め、再度検討していく必要が考えられる。

引用・参考文献

児玉光男(2011)世界一わかりやすいマズローの夢実現法則。東邦出版。